

令和6（2024）年度（公民館職員専門研修） 連携へのカギ～公民館の次なるステージへ～ 実施報告

実施日：令和6年10月1日（火）

本研修では、公民館職員、県や市町の関係課職員の方々が、講話や事例発表をとおして公民館等の果たすべき役割や今後の振興方策に関する知識や業務を遂行する上で、多様な主体との連携や関係についての意義や効果などについて学ぶとともに、参加者同士のネットワークづくりを行いました。今回は22名の方が受講されました。

○事例発表「清原の魅力を発信しよう！！」

発表者：清原生涯学習センター 専任（社会教育主事） 遠藤 敦子 氏

事例発表では、宇都宮市の目指す「輝く人の和 つながるまちの環 魅力と夢の輪 うつのみや」の基本構想実現のために、令和5年8月にライトライン（LRT）開業を大きな契機として、人が多く訪れるようになると想定される清原地区から、地域づくりにつながる講座情報を発信していこうと取り組まれている内容を発表していただきました。清原地区は、小・中・高・大の学校教育機関があるとともに、多様な企業が存在する工業団地があります。その特長を生かして、多様な主体と連携を図りながら講座の充実を図り、地域住民の学びの場を提供し、学んだ内容を来訪者に発信してもらうという学びの先の姿を想像して事業を行っていると話されました。

○講話「連携！関係！それでOK？～新しい時代の公民館の在り方を考える～」

講師：東北学院大学 地域総合学部 教授 原 義彦 氏

講話では、「公民館の連携は何のためにあるか」、「地域との関係づくりをどのように進めるか」というテーマでお話しいただきました。公民館においては、多様な主体との連携や関係の意味合いが30年で大きく変わり、その時代や地域に応じて、何のための連携なのかを捉えることの重要性について示されました。また、公民館のモットーは何か、公民館が地域住民のニーズを生み出し、引きつけ役になることが住民の学びを高め、ひいては地域づくりにつながっていくことを話されました。

そして、公民館での学びがどのように地域の人々の気持ちや行動に変化があったのか、評価をすることの重要性について調査結果を提示しながら説明されました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・公民館もこれまでのままではなく、「変わっていかなければいけない」という、言葉がとても印象に残りました。
- ・公民館の職員の方に今の公民館の現状を聞くことができ、学びがありました。
- ・若い世代を巻き込むと、より公民館が盛り上がりを感じました。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp